

ウベリスって知ってる!?

難治性レンサ球菌・ウベリスの紹介

釧路西部事業センター 音別白糠家畜診療所 獣医師 寺尾剛士

環境性レンサ球菌 (OS)

環境性レンサ球菌、通称OSは広く環境に分布しており、季節性はあまり認めずに1年間を通して発生します。通常、乳房炎細菌検査の30%以上でOSが検出されます。OSと比べても、そのグループの中には様々な菌種が含まれています。今回はOSの中の1つで、かけはし5月号でも少し話題に出ました「ストレプトコッカス・ウベリス」(以下、ウベリス)についてお話しします。

ウベリスとは?

「OSは治りづらい、再発を繰り返す」と思っている方が多いのではないのでしょうか?それはOSの中でもウベリスが原因かもしれません。ウベリスは感染すると乳腺細胞の表

面への付着や、乳腺細胞内に侵入するといわれています。ウベリス以外のOSは乳汁中が感染部位となりますが、ウベリスはOSの中で一番抗生剤の届きにくい所にまで侵入し、悪さをします。ゆえに、ウベリスは難治性といわれています。ウベリスに感染した乳房のおよそ4割がその後1年以内に再発した、というデータもあります。

図1のグラフをご覧ください。これは、ある診療所の約2年間の乳汁検査でOSと判定された検体のウベリス

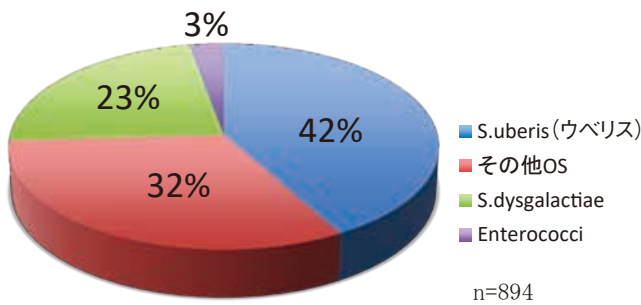


図1 レンサ球菌中のウベリスの割合

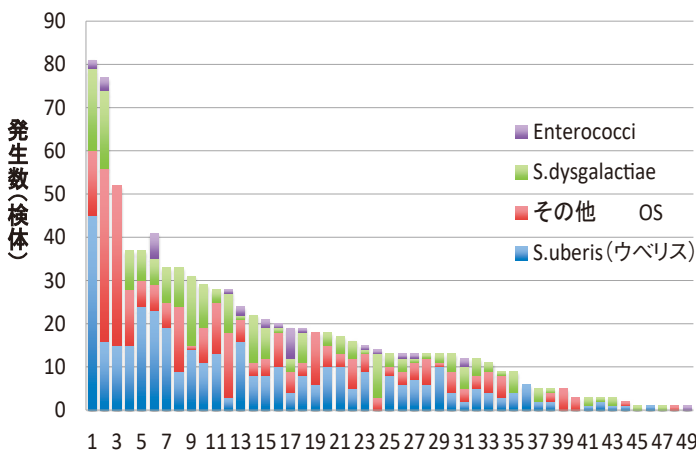


図2 農場別のウベリス発生割合

ペリスの割合を示したものです。棒グラフの青の部分でウベリスを表していますが、意外と多くを占めている!といった印象を受けるのではないのでしょうか。もちろん農場ごとに発生する割合も異なりますが、乳房炎の再発が多い農場ではウベリスが潜在している可能性が十分に考えられます。乳房炎の再発で悩んでいる方は獣医師に相談してみてください。

◆ 予防が大事!!

環境性レンサ球菌というくらいなので、ウベリスも牛舎の中の環境に存在します。特に麦稈ほっかんを敷料にしている牛床に多く存在しているといわれています。ぬかるんだ敷料や糞便で汚れた牛床から乳頭に侵入します。一度感染してしまうとなかなか治りにくいいため、予防が重要になります。基本的な事ですが、敷料をこまめに交換し、清潔で乾燥した状態を保ちましょう。環境性乳房炎はブレイクピンングと乳頭を入念に清拭することで、搾乳時に乳頭内へ菌が侵入することをある程度防いでくれます。正しい搾乳衛生、きれいな牛舎環境を心がけましょう。また、環境性乳房炎は乾乳直後と分娩直後で感染リスクが非常に高いので、乾乳期治療（乾乳時に乾乳軟膏を注入する）も予防といった意味では重要です。ただし乾乳軟膏は1ヵ月で効果が切れてしまうものもあるため、分娩予定の約2週間〜10日前（乳が少し張り始めたかな？くらい）にPL検査を行い、反応がある場合に泌乳

期用軟膏を注入する「分娩前乳房炎治療」というのも最近はやや予防面で注目されています。

◆ 実際にOSやウベリスにかかったら？

OSの乳房炎になった場合は、3日間の乳房炎軟膏による治療で終わらせず、2クール以上（6日間以上）の長めの治療をお勧めします。治療に反応しにくいウベリスも5〜8日間の乳房炎軟膏による治療で高い治癒率が得られます。また、軟膏と同様に抗生剤注射も併用すると治癒率がさらに高くなります。基本、カナマイシン以外の抗生剤には感受性があります（もちろんペニシリンや他の抗生剤に薬剤耐性を持つものもあります）。他には、1日乳房炎軟膏注入後、罹患乳房を3日間以上搾らない「シヨート乾乳治療」もウベリスには有用とされています。しかし、それでも慢性化し再発を繰り返す場合は盲乳処置や淘汰も必要かもしれません。

以上の事から、ウベリスの治療には感受性のある乳房炎軟膏の長期間

注入や注射の併用、さらにはシヨート乾乳などのできる限りの治療を行い、反応しない場合には盲乳などを考慮し、ただ治療せずに慢性化させないようにしましょう。